

# 平成30年度新規研究課題

課題番号（8）

課題名：大豆の葉枯性病害の発生要因の解明と対策

研究期間：平成30～32年度

研究担当：農業技術部資源循環研究室

## 1 研究の背景

大豆は葉で光合成を行い、養分を子実に転流するため、早期の落葉は収量や品質に影響する。山口県内において、昨年、例年より約1か月早い落葉が確認され、減収する圃場が多数認められた。これらの被害株には、葉の斑点や葉柄基部の褐変症状とともに褐色輪紋病菌など複数の病原菌が確認されたが、早期落葉との関連性は不明であった。

大豆は集落営農法人等の担い手の基幹作物であり、早期落葉は減収・減益につながるため、早期の原因究明と対策が求められている。

## 2 目的

早期落葉の要因を解明するとともに、葉枯性病害の防除対策を確立する。

## 3 研究内容

### （1）葉枯性病害の発生要因の解明

現地における発生実態の把握及び原因となる病原菌の生態を解明する。

### （2）防除技術の確立

発生生態の解明に基づく耕種的防除対策の検討及び有効薬剤を選定し、最適防除時期を決定する。

## 4 研究のポイント

早期落葉の要因を解明し、葉枯性病害の防除対策を栽培暦に反映することで、大豆の安定生産を図り、経営安定に資する

# 大豆の葉枯性病害の発生要因の解明と対策 (H30-H32)

農業技術部 資源循環研究室

## 背景

- ・ 昨年、山口県において早期落葉により減収するほ場が多数発生
- ・ 落葉した株からは複数の病原菌を確認（褐色輪紋病菌など）
- ・ 大豆は担い手の基幹作物であり、早期の原因究明・対策が必要



葉柄基部が褐変



葉に斑点

写真 奥側は葉が褐変枯死・落葉、手前は健全  
\* 5月下旬播種、品種「サチユタカ」

## 研究内容

早期落葉に関する  
葉枯性病害の発生要因解明

発生実態の把握  
病原菌の生態解明

防除技術の確立

有効な薬剤の選定  
最適防除時期の決定

効率的な防除対策を栽培暦に反映

大豆の安定生産による大規模経営法人等生産者の経営安定